

平成21年度ふるさと子ども夢学校現地研修会・関東ブロック 参加者事後アンケート集計表

■ふるさと生活体験に期待する効果について(回答者の意見の集約結果)

- ・すぐには効果の出ない子どもの成長が重要視されている。(特に都会で暮らすこと子どもにとって)普段とは違う場所や人、ゆったりとした時間の中で、自分で考えて行動することによる、「生きる力」(自発性、視野の拡大、感謝の心、コミュニケーション能力)育成が切望されている。
- ・人間と自然との関係、農林水産業への関心、日本の国土や食を守ることへの意識を、子どもから教育の場から高めたいとの意見も多くみられた。

■今後の課題(回答者の意見の集約結果)

- ・関東ブロックでは、「金銭面の負担」よりも「教員の負担」「教育委員会の了解」等が注目されていたように思える。まずは教員の熱意と教育委員会のサポート体制である。
- ・児童の安全確保、「本物」かつ連続性のある体験メニューを行うために、学校と地域とのコーディネートシステム(窓口機関)の充実が望まれている。それが送出側の教員の負担減にもなる。
- ・子どもプロジェクトの推進体制にまだ工夫の余地があるとされていた。多様な機関(国、地方自治体、まちむら機構、研究機関、先行実施者等)が連携して、効果に関する情報提供、成功例等の紹介をさらに積極的に行っていくことが重要である。

参加者の所属・役職		1. ふるさと生活体験によって期待される効果とは	2. 小学校におけるふるさと生活体験の普及について		3. 小学校において「ふるさと生活体験」を普及させるための課題	4. 今後、小学校において「ふるさと生活体験」を普及させるために求められること	5. この取り組みに対してご意見がありましたら、ご自由にお書き下さい。			
所属	役職		所属校で実施したいか	その理由				小学校においてふるさと生活体験を普及させたいか	その理由	
回答項目		自由回答	①ぜひ実施したい ②まあまあ実施したい ③どちらでもない ④あまりしたくない ⑤全くしたくない	自由回答	①ぜひさせたい ②まあまあさせたい ③どちらでもない ④あまりさせたくない ⑤全くさせたくない	自由回答	自由回答	自由回答		
西予市立中筋小学校(愛媛県)	教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで経験したことのないことを実際に体験する、これは子どもたちにとって貴重な学習であり、自信につながるだろう。 ・集団生活の中で、互いにコミュニケーションをとりながら、自分で考え助け合っ行動することができるようになるだろう。 ・日々の豊かな暮らしは、多くの人たちに支えられていることに改めて気づき、感謝の気持ちを持つことができるようになるだろう。 ・生活リズムが整えられるだろう。 	③どちらでもない	現在、5年生を対象に5校合同で青少年交流の家宿泊体験(2泊3日)を長年にわたって実施している(バス借上にかかる費用は、市費)。そのため、この活動を「ふるさと生活体験」にきりかえていくようにしないと、学校・保護者の負担が増えると思われる。	②まあまあさせたい	DVDで紹介していただいた南信州セカンドスクール研究会のような学校と現地をつなぎ調整していただく機関があれば取り組みやすいと思われるが、今の段階では、学校が直接現地と交渉し、会計処理などをする必要があり、負担が大きい。しかし、子どもたちにとってはプラスになることの多い有意義な体験学習と思われる、ぜひ参加させてやりたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の負担、②指導に自信がない、③授業時間数の不足、⑥児童の健康・安全面の不安、⑦金銭面の負担、⑧保護者の理解、⑨教育委員会の了解 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入側の充実(窓口) ・予算面…保護者の負担の軽減 ・安全管理 	受け入れシステムがしっかりと整っている飯山市、豊かな自然の中、参加している子どもたちも、本当に生き生き楽しそうでした。民宿の方も、明るく心豊かな方々でした。農山村でのふるさと生活体験の意義を知らせ広めるためにも、今回の取組は大変よかったですと思います。お世話いただいた皆さんの皆様、本当にありがとうございました。	
足立区立上沼田小学校(東京都)	教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人間関係の創造 ・自然への関心の高まり→日常生活の見直し ・情緒の安定 	①ぜひ実施したい	3(3)で書いたとおりです。ぜひうちの子どもたちとともに体験してみたいです。	①ぜひさせたい	局所的に行うのではなく、広く普及させていくことに価値があると思います。	<ul style="list-style-type: none"> ①教員の負担、②指導に自信がない、③授業時間数の不足、⑤教育効果が曖昧、⑥児童の健康・安全面の不安、⑦金銭面の負担、⑧保護者の理解 	なかなか目には見えない、すぐには表れにくい価値を皆で共有していこうという姿勢を続けることと思います。「ふるさと生活体験のすすめ」のパンフレットにあるような、「勉強に対してやる気のある子どもが増える」というような伝え方もあるかと思いますが、ともすると短絡的なことに重きを置かれて行きかねないかなと思います。ですから、この試用期間に体験した子どもたちをその後も何らかの形で調査をしたりして、できるだけ誰にでも納得させるような方法(科学的な方法?)で宣伝・普及させていく必要があると思います。		
目黒区立田道小学校 学校運営協議会(東京都)	副会長	普段の生活空間とは違う異なる時間と人間関係の中に身を置くことで、子どもたちは自ら新発見をされると思われる。すぐに効果を求めるのでなくでもよいのでは。				子どもたちには田舎の空間、大自然の提供は必要。とくに自然と対峙している営みは見せたい。体験を通じてのコミュニケーションも大事。		安全面の確保が第一。子どもたちも事前に現地との交流を図り、人間関係を作っておくことが大事では。都会に田植え指導に現地から来て、同じ稲の刈り取りなど連続した交流。		
日本教育新聞社企画調査室(東京都)	担当部長	まず第一は「里親体験」。今の子どもたちは、コミュニケーション能力が不足していると言われていますが、自分の親以外で他の地域環境で暮らしている人のところに身を置いて、交流を持つことは重要だと思います。勉強・学習は二次。すぐ効果が出ないものだと思います。			①ぜひさせたい	ただ、新しい学習指導要領で、授業時間数増の中で、7月～10月間の体験の時間をどう取っていくか、大変工夫のいるところだと思います。		田舎ののんびり感をどう体験させていくかだと思います。都会とは違うライフサイクル(せかせかしない)が田舎にはあると思います。それをどう理解させ、広め、学校が説明、理論武装するか…だと思います。	今日視察させていただいた「森の家」のような、若い人にうけるプログラムを小学校プログラムに導入したほうが良いと思います。	

小学校長期自然体験活動全体指導者(福島県)		ふだんの生活とは全く違う環境の中で、自ら気づき、考え、行動するようになると思います。今は子ども一人に対する大人のほうが多すぎるので、そのほうが、自発的な行動を奪っている気がします。ぜひ、全国の農山漁村で生活している方々の生活そのもの、背中を見せてほしいと願っています。			①ぜひさせたい	子どもたちにとって、かけがえない経験になり、また、受入する側にとっても、生き甲斐の1つになるので。		現場の先生方の日常業務が忙しく、また、予算面でも不安が多いので、教育委員会のほうでもあまり指導していないという話を聞きます。上記5-(3)に課題があると思うので、それをクリアすること、また、市町村単位での支援があると実施しやすくなると思います。	本プロジェクトが、3省連携で動いているにもかかわらず、現場の先生方の認知度が低いということは、やはり地元の人(受入側)が自ら動き、学校に働きかけることが、大切なかもしれないと思いました。またその意味においても、まちむら機構で作ったパンフやDVDは先生や受入地域の方にそのまま渡せるツールなので、今後ともぜひ続けてほしいと思います。2日間お世話になり、ありがとうございました。
富里市立富里南小学校(千葉県)	教諭	学校行事での修学旅行や他の施設を活用しての体験学習は、児童の安全のため、細かい規則の徹底が必要とされ、教師も児童もそれだけにエネルギーを使う部分がありますが、「ふるさと生活体験」のプログラムは、ゆったりとした生活のリズムのなかでの少人数の活動により、子どもたちのきずなが深まり、共に物事に取り組む気持ちや友達や両親そして兄弟との関係を反省でき、今後の自信のあり方を発見できる貴重なものであると思います。民宿のお父さんお母さんとの対話は、この活動以外では望めないものと考えられます。美しい山々や深い緑そして湖や川(小川)のすばらしい環境のもとでの活動は、子どもたちにとって、一生心に残るものになると思います。	②まあまあ実施したい	内容はとても素晴らしいのですが、どのように進めていくかの点が不安と言えます。普及したいとは思いますが。		普及したいと思います。	③授業時間数の不足 ⑧保護者の理解 ⑨教育委員会の了解	「ふるさと生活体験」のキャンペーン活動の充実 ・成功例と留意点の紹介や実践校の紹介 ・学校においては教職員への理解と保護者への説明会 ・教育委員会が窓口になると、スムーズに伝達できるのが今の現状ではないかと思えます(各市町村の教育長の決断によるものが大きいのではないのでしょうか)。	今後とも農山村留学推進事業等に使命感を持って取り組んでいきたいと思えます。
近畿日本ツーリスト(株)東京第一教育旅行支店	ジュニアステージ	小学生という、まだまだかなり純粋な時期に、飯山に第二のふるさとと言えるような場所があるというのは、中学生、高校生と時を経てもよい経験になっていると思います。また、東京からの(都会)子どもたちであれば、現在のゲームや、ケータイ等のデジタルな思考に加え、より広い視野を与えたいと思います。合理主義etc.とふるさと体験(農業体験)どちらが正しいかではなく、視野を広げる、という点で効果があると思います。			①ぜひさせたい	私自身、教育の現場でのルール(時間数など)をよく知らないのですが、それをめかせば、十分に経験させてあげる価値があると思えます。		各自治体の教育委員会などの理解を得ることだと思います。また、目で見てわかるような結果(すぐに出るとは思いませんが)や、よい価値があるというPRだと思います。また、旅行会社や、様々な組織との連携です。	意見交換会である先生がおっしゃっていたように、一発の花火ではいけないと思います。学校ごと、自治体ごとの考えがあり、強制も難しいと思いますが、事前事後のケア(研修・説明会・手紙)ができれば、よりよいプログラムになると思います。
(株)農村環境整備センター(東京都)	専門研究員	人間と自然との関係を見つける機会となり、環境を守ることを意味し、体験として身につけることになると考えます。			①ぜひさせたい	なるべく若いうちに、自然と人間の営みについて体験させておくことは重要と考えます。人間も生態系の一部であることを知ることは、環境問題に対する意識を高めることにもつながると思えます。		体験メニューを充実させることと専門的知識を持つインストラクターを参加させ、「遊び」が「学び」に自然につながるようなプログラムが欲しい。地域ごとに、いくつかのテーマを設定したプログラムを用意し、先生や生徒に選ばせてはどうか。	千葉市のような知らない子どもたちを結び付けるような仕組みは重要と考えます。
(株)農協観光GT事業本部教育旅行課(東京都)	課長	「生きる力」を育むための重要な行事である。長期宿泊をすることにより、児童の自主性、主体性、協調性が育まれることは、間違いない。また、農山漁村における本物の体験をすることにより、生命の大切さ、日本の食糧に対する理解が深まる。			①ぜひさせたい	バーチャルの世界でしか活動していない児童に本物の体験をさせる、絶好の機会であると思う。			

※回答内容の公開を拒んだ参加者の分はここで掲載していません。